

植物防疫所

病害虫情報

No. 50

1996・11・15

創刊50号発刊に当って

横浜植物防疫所

所長 小林 敏郎

本誌の記念すべき第50号の発刊に当り一言ご挨拶申し上げます。

本誌の第1号が発刊されたのは1979年であり、当時はイネミズゾウムシやオンシツコナジラミ等の重要害虫が新発生してから間もなくの時期であり、新病害虫の早期発見や防除技術に関する情報の重要性が痛感された頃です。こうした背景のもとに本誌が創刊され、以来すでに17年が経過し、この間毎年ほぼ3回発行され、わが国未発生や新発生

の病害虫だけでなく、各地で話題となっている病害虫に関する情報も含めた内容の充実、多様化を図り、また最近の植物検疫に関する情報等をカラー図版・写真

を多く用いるなど解りやすい情報提供に努め、その役割を果たしてきたことは誠に意義深い事と思います。これも、写真等を快く提供していただいた国や県の防除関係者のご協力の賜であり、また植物防疫全国協議会会長を始めとした編集委員の有益なご指導によるところが大きいと思います。また、その方針のもとで努力されてきた編集幹事の皆様や頒布にご協力いただいている(株)日本くん蒸技術協会等多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

植物の輸入量は相変わらず増え続けており、栽植用植物、切り花、野菜が最近10年間で3～7倍に

増加、また輸送方法ではコンテナによる輸入が2倍強、航空貨物が5倍に増加し、大量かつ多種多様な植物類が海外から短時間に運ばれて来るようになっております。これらに付着している病害虫の活性も高く、病害虫の侵入の危険性は一層高まっているといえます。



植物防疫所では植物の輸入時に病害虫の検査を行い病害虫の侵入防止に努めていますが、今年6月に植物防疫法の一部が改正され、今後は水際における検査に加え、多様な植物検疫措置の導入を図るとともに病害虫の危険度に応じた、より効果的、効率的な植物検疫を実施し、新たな侵入防止に向け、さらに万全を

期したいと考えております。しかし、万が一病害虫が侵入した場合、早期発見し、根絶を図ることが重要であり、そのためには植物防疫所と国内防除・研究関係者との連携が不可欠です。関係者が常に国の内外の病害虫や植物検疫に関する的確な情報を得られることが重要であり、このため本誌の役割は極めて大きなものがあると考えております。今後本誌の更なる充実を目指し、なるべく現地における病害虫のカラー写真を多くする等の努力を続けるつもりでございます。関係者におかれましても、編集に対し一層のご協力を賜りますようお願いいたします。